

〔小・中・義務教育学校〕

「志を持ち、未来を創造する子供を育てる学校づくり」を目指して

1 生きる力を育む特色ある学校経営に努める

- 志教育全体計画及び年間指導計画に基づく志教育の推進
- 教育目標の具現を図る組織的・協働的な教育活動の推進
- 学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成と確実な実施
- 開かれた学校づくりを目指した学校評価の推進
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した特別支援教育の充実

2 学習指導要領を踏まえた確かな学力の育成に努める

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ICTを積極的に活用した個別最適な学び・協働的な学びの充実
- 教科指導力をはじめ教職員の資質・能力の向上に資する研修の充実
- 児童生徒の学習習慣の形成と家庭学習の充実
- 特別な配慮を必要とする児童生徒の実態及び個に応じた指導と支援の充実
- 幼児教育からの円滑な接続と9年間の児童生徒の学びの連続性を見通した小中連携の推進

3 たくましい心と健康な体を育む指導の充実に努める

- 児童生徒理解に努め心情に寄り添う積極的・組織的な生徒指導の推進
- いじめ・不登校の未然防止に向けた継続的・計画的な指導の充実
- 心身の健康と体力・運動能力の向上を図る体育・健康教育の充実
- 自校の重点内容項目を踏まえた道徳教育の充実
- 学校防災体制の強化と、地域と連携した防災・安全教育の推進

Ⅱ 指導改善に向けて

1 子供の学びを支援する5つの提言～自立した学習者の育成を目指して～

「学力向上に向けた5つの提言」は、平成25年10月に開催された学力向上を図るための緊急会議において、各学校のすべての先生方にすぐに取り組んでもらいたい事項としてまとめられました。教育の不易の部分が多く含まれた提言は、平成25年以来、宮城の教育のより所として大きな役割を果たしてきました。

社会の在り方が劇的に変わる中で、子供たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に身に付けるためには、生涯にわたって能動的に学び続ける自立した学習者となる必要があります。

令和5年、県教育委員会では「学力向上に向けた5つの提言」の不易の部分に、「個別最適な学び」、「協同的な学び」、「ICTの活用」などの視点を加え、「子供の学びを支援する5つの提言」として新たにまとめました。各学校において、これまでの取組を継続するとともに、新たな5つの提言の意味を全職員で共通理解し、着実な実践に努めていきましょう。

1 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、安全・安心に学べる環境をつくりましょう

安全・安心な居場所は、子供が充実した生活を送るための土台となります。子供の声を受け止め、個に応じた適切な支援をすることで、教師と子供、子供同士の良好な人間関係づくりに努めるなど、安全・安心に学べる環境をつくりましょう。

2 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てましょう

子供をほめるときには、子供が努力したことを具体的にほめることが大切です。努力を認めることで、更なる意欲を引き出し、難しいことにも挑戦しようとする気持ちや、目標に向かって努力し続ける気持ちを育てましょう。

3 子供が様々な学び方を知り、主体的に学習ができるように支援することで、学びに向かう力を育てましょう

子供が様々な学び方を知り、経験することで、見通しを持って学習に取り組んだり、学びを自己調整したりすることができるようになります。子供自身が学びの計画を立て、自由な発想でICTを活用できるようにするなど、自立した学習者として学び続けられるように支援し、学びに向かう力を育てましょう。

4 自分の考えを発表したり、交流したりする活動を充実させることで、深い学びにつなげましょう

自分の考えを発表したり、交流したりすることで、一人一人のよい点や可能性が生かされ、異なる考え方が組み合わさり、子供の学びが豊かになります。子供が習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びができるように支援しましょう。

5 家庭学習の質的向上を図るとともに、読書の時間を増やす働き掛けをしましょう

起床時刻、学習を始める時刻、就寝時刻を定めるなど、生活リズムを整えながら家庭学習の時間を確保するとともに、子供自身が課題を設定したり、ICTを効果的に活用したりするなど、家庭学習の質を高められるように働き掛けましょう。また、家庭や学校で読書の時間を設定するなど、子供が読書に親しむ機会の充実を図りましょう。

子供の実態に合わせてどの切り口から「子供の学びを支援する5つの提言」を実践していくのか、明確な方針を示せるように計画的に取り組んでいきましょう。『個別最適な学び』、『協働的な学び』、『ICTの活用』、『生徒指導提要』の視点から具体例を挙げました。参考にしてみてください。

1の取組例

- ・諸検査や生活アンケートを実施することで子供の様子や学級集団の状態を把握する。
- ・発達障害、外国人児童生徒、LGBTQ等を含めた多様性を受け止める。



2の取組例

- ・朝・帰りの会、休み時間、給食時間等、日常的に子供の話を聞く機会を持つ。
- ・行事や部活動等での子供のよさを情報交換する。



3の取組例

- ・授業の目標や振り返りを書かせ、ICTで共有する。
- ・課題解決に必要な学習形態や協働の相手、ICT活用等を自己決定し、学びを進める。



4の取組例

- ・ペアやグループの話合いの場面で、ICTによる資料提示を行う。
- ・子供はメモ的な活用とプレゼン的な活用を同時に行い、子供主体の学びを展開する。



5の取組例

- ・「予習→授業→復習」の一連の流れを大切にし、予習・復習の課題に計画的に取り組ませる。
- ・家庭・地域と連携して読み聞かせを行ったり、図書室の環境を充実させたりする。



※ 「全国学力学習状況調査児童生徒質問紙調査」と関連する項目は以下のとおりです。学校・家庭・地域の取組によって、子供たちの意識の変容を検証する際に活用しましょう。

- (14)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」(16)「学校に行くのは楽しいと思いますか」(18)「友達と協力するのは楽しいと思いますか」
- (7)「自分にはよいところがあると思いますか」(8)「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(10)「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」(11)「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」
- (32)「授業では、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」(39)「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」(42)「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていますか」(44)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」
- (34)「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」(35)「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」(40)「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか」(43)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」
- (2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」(3)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」(20)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」(21)「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」(23)「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」

<参考となる資料等>

- ・「子供の学びを支援する5つの提言～自立した学習者を目指して～」 宮城県教育委員会 R5. 3
- ・令和4年度検証改善委員会報告書「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて！」 宮城県教育委員会 R4. 12
- ・令和3年度検証改善委員会報告書「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて！」 宮城県教育委員会 R3. 12

2 協働による授業づくりの推進

各学校・園の教育課題に対応した協働的な学びを学校・園組織全体で行い、その成果を教職員間で共有することにより、組織力を高め、効果的な教育活動の実施を目指していくことが求められています。

対話を通して、他の教師の教育実践から学んだり、自らの実践を振り返ったりすることで、自身の経験を再構成することにつながります。教師の学びが子供の学びのロールモデルとなるように、PDCAサイクルで協働による授業づくりの更なる充実を図っていきましょう。令和4年度管内指導概況報告の『参考となる取組』について確認してみましょう。

PLAN(計画)のポイント 計画的に推進するために

工夫改善の例

【研究構想】

- ・ 全体構想（学校教育目標、願う児童生徒の姿、育成したい資質・能力、児童の実態、研究主題）を共有したり、学習指導要領を深く理解したりして、チームや個人の具体的な動き（構成員や組織の編制）・プラン（年間計画、年次計画）を描く。

【授業構想】

- ・ 授業者の思いを尊重しながら、アンケートの作成、集計や分析、教材・教具や提示資料の作成等を分担し、協働で授業づくりを進める。

DO(実施)のポイント ねらいを達成する授業実践を行うために

工夫改善の例

【授業構想】

- ・ 研究の視点との関連を明確にした授業づくりを進め、指導案の作成についてはねらい・目標及び評価規準等の整合性に着目して検討する。
- ・ 前時の授業から参観・検討できる体制を整備し、本時の授業の視点を明確にして、模擬授業・研究授業に臨む。

【模擬授業・先行授業・授業実践】

- ・ 資質・能力のイメージを共有化するために子供の姿を授業記録から捉える。
- ・ ねらいや目指す子供の姿に迫るための具体的な改善案を提案し合う。

CHECK(評価)のポイント 授業改善につなげる話合いにするために

工夫改善の例

【事後検討会】

- ・ 授業を見る視点や話合いのポイントを事前に示したり、時間設定を工夫したりするなど、事後検討会の内容を明確にし、共有しておく。
- ・ 「参観シート」や「授業評価シート」等を活用して授業を参観する。
- ・ あらかじめ子供の活動を詳細に見取る担当者を決め、子供の表情や具体的な学習の様子を全体で共有し合う。
- ・ 共同作業できるアプリを活用して互いの考えを共有したり、付箋機能を用いて整理したりする等、協議中に成果と課題の可視化、共有化を図る。
- ・ 授業改善に向けて、課題解決につながる代案を互いに示し合う。

ACTION(改善)のポイント 日常の取組につなげるために

工夫改善の例

【研究構想】

- ・ 研究主任や学年主任が中心となり、授業づくりの成果を日常的な取組につなげていけるように、『校内研究だより』等にまとめ改善策を明確にしたり、教員だけでなく、保護者とも共有を図り情報発信に努め、子供の学びを再確認したりする。

【授業実践】

- ・ チームや個人のプラン・手立てを省察し、深化させ、次年度の計画に生かす。
- ・ ICTの活用等について場面や方法等、効果的な実践例について紹介し合い、「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点から授業改善を図る。

<参考となる資料等>

- | | | |
|-------------------|---------------|--------|
| ・ 「校内研修プランシリーズ」 | 独立行政法人教職員支援機構 | H30.2 |
| ・ 「教職員研修の手引き2018」 | 独立行政法人教職員支援機構 | H30.4 |
| ・ 「宮城県検証改善委員会報告書」 | 宮城県教育委員会 | H25～R4 |